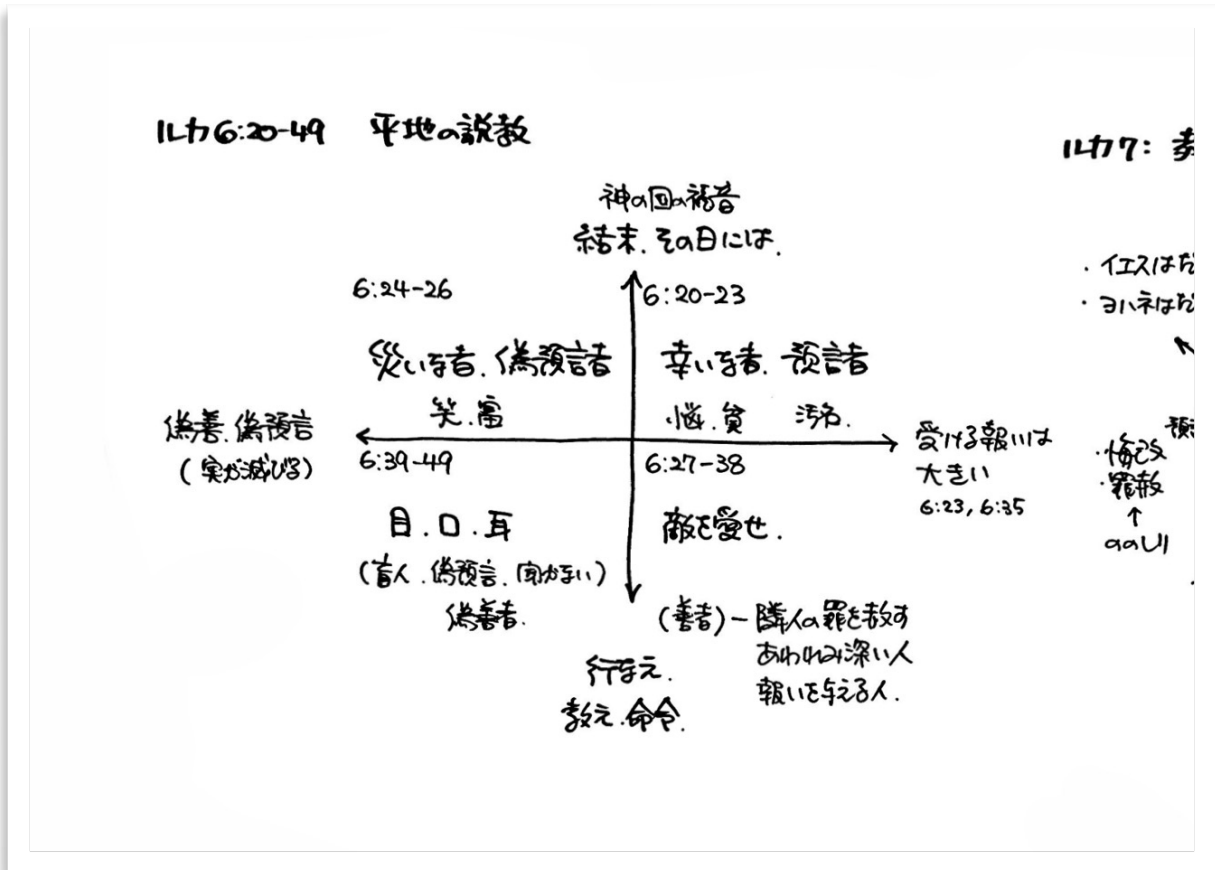




### ルカ福音書 6章 平地の説教



ルカ福音書の平地の説教、6章17節で山を下って平地に立たれて教えるというところ  
です。マタイ福音書の方は、山に登って教えられたというので、5章から7章が山上の説  
教と言われます。同じような説教ですけれども長さも違いますし、話している時が違  
います。場所も違います。同じ話を組み合わせが違う形で、このルカのテーマと一緒に見  
なければいけないという教えになっていると思います。

6章20節から49節まで。これを4つに分けるのが良いだろうと思います。山上の説教  
と同じように「幸いなるかな」ということで始まるのですが、20節から23節に「幸  
いなるかな、幸いな者よ」というのが4回あります。4回あるうちの4つ目が長いんです  
ね。それに対して、ここ(24-26)は、「哀れな者」、もしくは「災いなるかな、災いな  
者よ」という言い方で、並行している短い3つと、強調されている1つという「幸い  
(20-23)」と「災い(24-26)」のところですね。

それと(27-38)「敵を愛しなさい、罪人たちでさえ、敵を愛しなさい、さばいてはい  
けません」というこの4つで組み合わせられている段落です。敵を愛せという段落  
(27-38)と「また1つのたとえを話された」と39節に文章が入っていますね。ですので、  
38節までで区切るのが文学的にも妥当だと思います。そして、39節から49節までが、  
また1つの話になっているでしょうということでした。

まず、幸いな者、貧しい者、飢えている者、泣いている者、辱めを受けている者と。この幸いな者(20-23)も、災いと言っているところの者(27-38)も、「預言者たちをそう扱った、偽預言者たちをそのように扱った、彼らの先祖も」というように言っていますので、この預言者というのは、非常に大切だということですね。この預言者と言っているところの共通点としては、「その日には」。「その日には喜びなさい」とありますけど、この状態になった。幸いな者、貧しい者が、神の国を受け継ぎ、飢えている者が食べ飽きて、泣いている者が笑って、笑ってる人が泣いてと言っている状態、これが最後の日の状態です。その日にはこうなりますという結末なので。この結末が来ますので、聞いてあなたがたはこうしなさい。良い行いをしなさい。偽善者であってはいけない。聞いたことをちゃんとやるように、聞いて行うようにということを言われている。この表の下の段の方です。

片方(27-38)は「敵を愛せ、敵を愛しなさい、与えなさい、罪人たちでさえ、罪人たちでさえ、敵を愛しなさい、天の父のようにあわれみ深くいなさい、自分をさばくならあなたがたは報いを受けます」という形ですね。この段落は、隣人の罪を赦す、憐れみ深い人になりなさい、報いを与えなさいと。これは良い行いということですね。良い行いをしなさいということ具体的に教えられているところです。この中に「あなたがたの受ける報いは大きい」とありますが、表の上のところ20から23の幸いな者のところにも「天であなた方の報いは大きい」とありますので、「受ける報いは大きい」ということが強調されています。

(もう片方の)39からのところをどう見るのかなということだったんですけど、まず目の話、口の話、そして耳の話。目と口と耳と。これが偽善者と善者。本物の義人との区別をするものみたいなものですね。この目と口と耳は偶像でした。目があっても見えない盲人。口があっても良いものを語れない。聞く耳がない。そうではなくて…ということを使う。偽善者であってはならないということ。この目と口と耳という言い方でまとめられているかなと。

こちら(27-38)のあわれみ深くする。(39-49)の偽善者であってはいけないというのが、この「教え、行い」を平地の説教と言われているところで教えられていると思います。

神の国が来ます。その神の国が来る時に報いを受けられるように善を行いなさいということを使われているのが、平地の説教であろうと思います。では、具体的にどうしたらいいのかということが7章に書かれています。